

# Weekly Report



人類に  
奉仕する  
ロータリー

2016～2017年度  
国際ロータリーのテーマ  
人類に奉仕するロータリー

2016～2017年度  
名古屋瑞穂ロータリー会長のテーマ  
さらなる前進

創会 立：1980年(昭和55年)1月10日  
幹事 長：八木沢幹夫  
副幹事 事：関谷 俊征  
クラブ広報委員 員：星野 一郎  
例会 日：毎週木曜日PM12:30～  
会場：ビルトン名古屋

事務局：460-0008  
名古屋市中区栄1丁目3-3 AMMNATビル7F  
TEL：052-211-3803  
FAX：052-211-2623  
MAIL：2760\_nagoya@mizuho-rc.jp  
URL：http://www.mizuho-rc.jp/

## 第1776回例会

～平和と紛争予防/紛争解決月間～  
クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2017年2月23日(木) 曇り 第29回 於：岐阜グランドボウル

司 会：高原昌宏会場委員

### 会長挨拶

八木沢幹夫会長

今日は職場例会ということで、職業奉仕委員会の皆様、関谷幹事、お世話になります。たまたま瑞穂繋がり、名古屋瑞穂RCが岐阜県瑞穂市穂積にやってきました。私も数十年ぶりにボウリング場にきました。1970年代は13・14ポンドのマイボール、マイシューズを持ってプレイしておりました。記憶は定かではありませんが、平均が大体160スコアであったと思います。やり始めてから一番のピークは、1970年代のボウリングブームが来た頃でした。今日は残念ながら、年寄り病で足が痺れておりますので出来ません。申し訳ありません。今日は皆様プレイされると思います。自由に、十分に楽しんで、景品を取って頂いて、楽しい半日を過ごして頂きたいと思います。



### 出席報告

鈴木伸一出席委員

会員65名 出席25名 (出席計算人数47名)

出席率 49.0% 2月16日は補填により96.3%

### 幹事報告

関谷俊征幹事

・3月2日(木)13:40から第5回CA・第9回理事会をヒルトン名古屋4階「梅の間」にて行います。

### 職場例会

職業奉仕委員会：近藤茂弘委員長

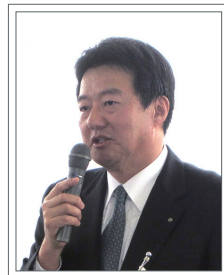
職場例会にお越し頂きありがとうございます。今日はボウリングトップアマ選手の講演で一旦例会を終了させていただきます。講演の後、バックヤード見学をしていただいてから、ボウリングをプレイする方、プレイしない方に分かれま。

プレイしない方で、JRでお越しの場合は、岐阜グランドボウルから穂積駅行きのバスが出ますのでそちらにお乗りください。

プレイをされる方はチーム分けをします。60歳以上、65歳以上、70歳以上、75歳以上の方はボウリング場の公認ハンデがあります。本日はボウリングを楽しんでください。

### 岐阜グランドボウル社長：関谷俊征さん

皆様こんにちは。今日は職場例会で岐阜までお越し頂きありがとうございます。6年程前にボウリングの卓話をさせて頂いた事もあり、その時にもお話をしましたが、岐阜グランドボウルは昭和47年から営業しています。昭和44年頃のボウリングブーム当時



には一生懸命練習された方もいるかと思いますが、毎週土日はマイボール、マイシューズを持った人が、1・2時間待ちでボウリングを楽しんでいた時代がありました。昨今は厳しい状況になっておりますが、とにかく大変なブームで、たくさんボウリング場がオープンしまして、当時は全国にボウリング場が3000センターはあったと思います。現在は700センター程になっており、ボウリング場協会公認の試合が出来るボウリング場は450センター程です。

職場例会では、これから未来があり発展するような事業所を見学して頂くのが良いと思うのですが、斜陽産業を見ることで、時代の変化とブームの怖さを知っていただけたらいいのではないかと思います。若い人達が業界を盛り上げようと一生懸命やっていますが、なかなか厳しいところがあります。本当に残念です。

同じスポーツでもゴルフは盛んで良いスポンサーが付きますが、ボウリングはそういった環境にも恵まれていません。やはりアマチュアスポーツが栄えるには、プロスポーツが盛んでなければ難しいと思います。プロはたくさんいます。ボウリング場約700に対してプロは1300人います。ボウリング場に所属しているプロは少なく、フリーや全く違うところの所属で、何とかやりくりをしている多くのプロがいるのが実情です。

ボウリングはレジャーカスポーツかの議論が昔からありました。スポーツという括りももらったきっかけは、国体への参加だったのではないかと思います。1988年京都の国体からボウリングが正式種目になりました。岐阜グランドボウルは、2012年のぎふ清流国体の会場でした。女子プロが出来たのは1969年、第1期は13人で、中山律子さんなど有名なプロ達が業界をリードしていました。

靴を借りればすぐにプレー出来る手軽さと便利さがあって、年齢層を問わずにプレイ出来るボウリングですが、今では多くの若い

人達にゲームを楽しんでいただくことが難しい状況にあります。

本話をさせていただく竹川はトップアマで、オールジャパンのメンバーでもあります。彼女はジャパンオープンをプロを抑えて優勝しており、ボウリングでは日本を代表する選手です。ボウリングが東京オリンピックの種目にならなくて本当に残念ですが、頑張っているプロやアマチュアも大勢います。

本日は、あまり見る機会のないボウリング場の裏側を見ていただきます。昭和47年から直しながら使っている機械もありますが、ボウリング場はこうなっているんだなという知識のひとつにしていだければと思います。本日は遠いところまでありがとうございました。

### 竹川ひかる選手講演

本日は講演の機会を作って頂きありがとうございます。

ボウリングは小学校4年生の時に両親の勧めで始めたのがきっかけです。大学への進学と、2012年にぎふ清流国体の開催でボウリング競技に力を入れているため、岐阜県へ来ました。



2012年の国体では女子の部個人戦第2位の成績でした。また、大学2年生の時にナショナルチームに入ってから6年目になります。関谷社長の話にもありました様にボウリングは残念ながらオリンピック競技には選ばれていないので、4年に一度開催されるアジア競技大会での優勝が今の目標です。私は2年前にアジア競技大会に出場しましたが、チーム戦第4位でメダルまで届きませんでしたので、2019年のアジア競技大会で必ずメダルを取ることが目標です。

ナショナルチームの練習は、年2回の合宿があります。全国からメンバーが集まり、投球よりも体力作りを中心としたメニューをこなしています。具体的には、投げる時にフォームが崩れないようにウェイトトレーニングをして体幹を鍛えます。世界で闘うチーム作りを目指した練習です。近年、投球だけではなく、力強いボールを投げるための身体作りが重要視されています。また、個々の練習では毎日3時間、大学の後輩と一緒に岐阜グランドボウルで練習をさせて頂いています。練習で出来ないことは試合でも出来ないの、試合形式で投球練習を行います。また、大学生の頃から週に一回大学のトレーニングルームで体幹トレーニングを行っています。何事も継続して行う事に意味があると思うので、岐阜に来てからずっと続けています。

こうして毎日練習をすることも、周りの方々の理解がないと出来ません。練習環境に恵まれ、ボウリングに集中出来るのは周りの方々の理解があるからです。そして、勝つためには技術を高めることももちろん必要ですが、ボウリングは心が大切な競技だと思います。どんな強い相手でも、年齢、性別関係なく、アマチュアがプロにも勝つことが出来るようなスポーツなので、自分をコントロールできるようになる事が勝負に勝つ一番のポイントだと思います。2年後のアジア競技大会に向けて、自分に自信が付くほどの練習をして大会に臨みたいと思います。

### 梶田朋寛プロ挨拶

昨年はシードで自分なりの成績を残せましたので、今年もシードを残せるように精一杯頑張って行きますので、応援よろしくお願ひします。

### 山川尚晴プロ挨拶

ボウリングはご年配の方から若い人達もできるスポーツです。昨年、65歳でプロのトーナメントを優勝された方もいます。ボウリング業界の環境を知って興味を持っていただければと思います。



### 例会のご案内

#### ■今週の卓話 3月2日(木)

テーマ：シナプソロジー・機能改善体操  
～脳も身体も活性化しよう～

卓話者：シナプソロジー教育トレーナー  
榎本加代子さん

#### ■次週の卓話 3月9日(木)

テーマ：伊勢志摩サミットの要人警護

卓話者：江南 RC 榎本哲一さん

#### ■次々週

3月16日(木) R規定により休会